



シャクヤク栽培農家

小林 建栄 さん(写真右から2人目) (新保)

わが子のように愛情を込めて育てた真ん丸のつぼみ

私と妻、次女、三女とその夫の5人でシャクヤクを栽培しています。140坪の畑で、「富士」とその枝分かれのオリジナル品種で、娘たちの名前を元にした「三礼加」を中心に栽培しており、加温したハウス、無加温のハウス、露地と4月上旬から5月いっぱいまで出荷できるようにしています。

シャクヤクは株を植えてから4年は花を採らず、つぼみを付けたら摘み取るという作業を繰り返して、大きく丈夫な花を付けられるように株をじっくり育てます。5年目からやっ



上) 収穫に適した状態のシャクヤクを見極める眼差しは真剣そのもの。
右) 三礼加のかわいらしいつぼみが並ぶ。



と収穫できるようになりませんが、お客さんの手でちょうど咲くように、収穫するタイミングにはとても気を使います。早すぎると咲かなかつたり、花が開いても小さかったりすることがあり、逆に遅すぎるとすぐに満開になってしまい、長く楽しめなかつたりするので、長年の経験で培った品種ごとに異なる最適な状態を見計らって出荷をしています。

花の栽培というのと、きれいで簡単なイメージがあるかもしれませんが、ハウス掛けなど重労働もあり、大変な部分もあります。しかし、わが子のように愛情を込めて育て、納得できる良い品質の花が出来たときは本当に嬉しいものです。

今年、娘のアイデアで海外の花の博覧会に初めて出品してみました。ほかにも、中国など海外向けに赤系の新品種を導入するなど、楽しみながら新しいことにも挑戦していきたいと思っています。

信州中野のシャクヤクが皆さんのお手元に届くまで



株が小さいうちに、細い茎や脇のつぼみを切り、大きな花をつけるように栄養を集中させます。



つぼみの状態を目で判断して、お客さんの手でちょうど良いタイミングで咲くものを選んで収穫します。



気を傷めないように花を付けながら、長さを揃えて余分な葉を取り除き、つぼみの大きさと重さで選別します。

シャクヤク鑑賞スポット

つぼみの段階で出荷されていくため、市民の皆さんも、咲いているシャクヤクを市内で見える機会はあまりないかもしれません。

毎年5月中旬から6月上旬ごろ、市役所東側の道路沿い(本紙26頁上部の写真)のほか、一本木公園イングリッシュガーデン(右写真)では、もう一つの「市の花」、バラとの共演が見られます。



冬の寒さが大輪を咲かせる

冬の寒さが花を充実させるため、中野市にとってシャクヤクは適地適作といえます。新規栽培者も募集しているほか、地元の皆さんに親しみを持っていただけるよう、2016年5月14日には信州中野いきいき館で「シャクヤクフェア」を開催します。



JA 中野市 園芸課 営農技術員(花き担当)

荒井 由加 さん

長い時間をかけて育てた
美しい大輪を届けます

中野市のシャクヤク農家は、キノコや果樹との複合経営をしている家が多く、わが家でも、通年でエノキタケを栽培しながら、春はシャクヤク、秋はブドウと、複合で栽培を行っています。

シャクヤクの品種は、「サラ・ベルナール」「富士」「バンカーヒル」「ルーズベルト」などで、無加温のハウスと露地で栽培しています。

収穫したシャクヤクは、長さを揃えたり等級ごとに選別したり、荷造りを行います。荷造りは家族そろって大勢でやるのが、わが家の風物詩のようになっており、ゴールデンウィークには子どもたちも手伝ってくれます。忙しい中でも、家族で和気あいあいと一緒に仕事ができるのは、農業の素晴らしい部分の一つだと思います。

荷造りしたシャクヤクも、そのまま出荷してしまうと、水分不足で萎れてしまいます。「水揚げ」（切り花に水を再び吸わせてあげる）する時間をしっかりと確保することで、水分をたっぷり吸い上げ、鮮度が格段に上がるため、野菜などの朝採りと違い、シャクヤクは収穫したその日に出荷するということは基本的にありません。

シャクヤクの出荷が終わっても、肥料をあげたり、虫が付かないよう



シャクヤク栽培農家
原 栄二 さん（桜沢）



左）長さ80センチの「シャクヤク鎌」は、出荷基準の寸を一目で確認できるように、腰を曲げずに作業でき、シャクヤクの収穫には欠かせない道具。

に消毒をしたり、シャクヤクの世話は続きます。来年もきれいな花をたくさん咲かせてくれるように、秋に葉が枯れて刈り取るまでのできるだけ長い期間、葉を保たせ、栄養を蓄えさせる必要があるからです。

5月から6月は、市内の直売所などでもいろいろな種類のシャクヤクを見ることが出来ます。産地ならではののお手頃な価格で手に入れることができると思うので、皆さんもぜひ「市の花」であるシャクヤクをご家庭などで気軽に飾っていただければと思います。



市場を通して花き店や量販店などに並んだり、ブライダルなどで装飾に使われます。（写真は銀座 NAGANO の様子）



翌朝に箱詰めし、共撰所に持ち込んだシャクヤクは、品質検査を受け、トラックで花き市場などへ運ばれます。



涼しい場所に置き、しっかりと水揚げを行います。（冷蔵室がある農家では冷蔵しながら水揚げします）



(株)フレネット HIBIYA
(花きの総合卸会社)
(本社：東京都港区)

バイヤー

中野 琢 さん（写真右）
関口 修正 さん（写真左）

豪華さと季節感が魅力

ウェディングを華やかに演出したり、春から初夏にかけてようやく流通することから、季節感を表す花として首都圏のお客様から人気があります。中野市産は、等級や選別がしっかりしていて、お客様のご要望に合わせて買い付けができることも魅力ですね。



JA 中野市 南部共撰所
花き検査担当

小林 修幸 さん

シャクヤク見続け 30年

5月中旬から下旬のピーク時には一日で10万本を超える出荷があります。つぼみの状態からの開き方は品種ごとに異なり、気温にも大きく左右されるので、天気予報は必ずチェックしています。市場からの評価を落とさないよう、厳しい目で検査を行っています。